

成人ニ關シテハ其改惡法特種ノ學問ト才智アル取扱トヲ要ス其最モ  
 注意スヘキハ罪人ノ性質如何ニアルナリ即チ初發ノ罪惡ニ對スルニ  
 ハ寬仁ナル處置ヲ以テスヘシト雖モ時トシテハ不得已之ニ嚴密ナル  
 懲戒ヲ加ヘテ遷善ノ念ヲ發起セシムルコトヲ要スルノ場合アリトス而  
 シテ又罪人中或ハ此防惡法ニ服從セサル者アリト雖モ如此キモノハ  
 其數僅々ニ過キサルヘシ而シテ如此頑梗ナル罪人ヲ處スルコトハ茲ニ  
 一方法ノ存スルアリトス即チ之レヲ警察吏ノ監督ニ付シ若シ再ヒ罪  
 惡ヲ犯スルハ其輕重ニ從ヒ嚴重ナル懲罰ヲ加フルニアリ  
 之ヲ概論スルニ豫防遷善法ノ目的ヲ充分ニ達セントスルニハ人民一  
 般ノ品行ヲ改良スルニアリ而シテ此改良ハ專ラ宗教ノ關スル所ナルヲ  
 以テ宗教ノ力ニ因テ人民ノ品行并ニ交際ノ道ヲ一新スルヲ必要トス  
 蓋シ仁惠ト親愛ノ情ヲ以テ人民ヲ教化シ正直報國尊王名譽善性寬仁

ノ精神ヲ作り出タサレ可ガラス要スルニ永世國家ノ盛大ヲ致サシ  
 ト欲スルニハ今日ノ比ニアラサル至大ノ勉強ヲ要セサルヲ得ス假令  
 何程完全ナル社會并ニ方法アリトモ之ヲ放逸亂行ノ民ニ施スルハ其  
 功績ヲ見ル能ハサルヘシ故ニ惡人ヲ改良セントセハ先ツ之ヲ教化ス  
 ルニアリ然ルニ又教育ヲ充分ニ受タル民ト雖モ常務ト遊戯トニ其時  
 ヲ奪ハレ此道德ノ改良ニ力ヲ尽ス能ハサルハ甚タ歎スヘシトス獨リ  
 貴君ノ如キハ實ニ此事業ノ聖使ト云フヘキナリ貴君ノ年報ヲ以テ見  
 ルニ合衆國ノ如キ豫防遷善法ニ力ヲ尽スノ國ハ他ニ見サルノ所ナリ  
 故ニ予ハ貴君ノ望ミニ應シ此事業ノ一部ニ微力ヲ尽スハ大ナル幸ト  
 ス宜シク次ノ便ヲ待テ予カ熟考ヲ經タル一文章ヲ領収アラントテ祈ル

囚獄議會社員

一千八百七十四年七月十五日



ホナウホルドマルセンシ

二十二日附ノ書翰ヲ以テ演述シタル如ク貴君ノ依頼ヲ受ケテ作リタル此文章ハ翻譯ヲナスニ容易ナラシメンカ爲メ殊ニ簡畧ヲ主トス此事ニ就テハ貴君ヲ煩勞スル所少キニアラス然リト雖モ幸ヒ此ノ文章ノ旨趣果シテ改惡法ノ眞正ナル目的ニ適當ノ利益ヲ付スルコトアラハ稍々貴君ノ勞ヲ補フニ足ランノミ

又今時微シク功ヲ奏シタリトナス所ノ刑法ニ至テハ皆以テ不充分ナリト云ハサルヲ得ス蓋シ刑法ノ改進ヲ妨グル所ノモノハ流俗ノ説ヨリ甚シキモノアラス即チ俗説ニ由レハ人類ヲ御スルコ禽類ノ如クセサルヲ得スト此説ノ如クナレハ罪惡人ヲ改良スル爲メニ種々ノ方法ヲ用ヒテ右惡人ヲ再ヒ我社會ノ人トナスコトヲ得スシテ畢竟之ヲ殺戮セサルヲ得サルニ至ルヘシ如此クシテ能ク刑法ノ目的ニ達スルコトヲ

得ヘクンヤ其結果ハ止タニ失望ト人類消滅トヲ見ルニ過キサルナリ

余ハ深ク信ス如何ナル罪惡人ト雖モ善良ノ光輝全ク消滅スルモノコト非ス能ク之ヲ御スルニ法ヲ以テスレハ必ス之ヲシテ再ヒ大光輝ヲ發スルヲ得ヘキナリ故ニ余ハ如何ナル惡人ト雖モ此ヲ無智ノ人トシ此ヲ誤テ誘引セラレタル兄弟トシ此レヲ怯弱ナレモ尙ホ道理ヲ分別シ得ル者トシ此レヲ改良シ得ル者トナシテ善ク之ヲ看待シ其罪惡ニ誘フタル情慾ヲ取テ直サニ之ヲ善徳ニ導クノ引路者ナラシメント欲スルナリ憶フニ世俗或ハ已レノ不徳ヨリシ或ハ其先見ニ乏シキヨリシテ却テ惡人ニ惡心ヲ増加セシムル少ナカラストス

余ハ此論說ノ首ニ於テ罪惡ノ原因即チ猶幼君ノ時ニ當テ之ヲ抗撃シテ勝テ奏スルノ方法ヲ演ントス

完全ナル教育即チ身体道德宗教知識ノ教育ハ人民一般ノ安樂ヲ保ツ



ノ基礎ニシテ罪惡ノ半部分ハ之カ爲メ滅失セラルヘキナリ故ニ學校ノ數増加スルニ隨テ囚獄ノ數減少スヘシ少年ノ健康ニシテ教育ヲ受タル者ハ生計ヲ得ルヲ容易ナリ而シテ罪惡ノ原因ハ多少貧困ニ因ルヲ以テ能ク生計ヲ得ル者ハ自然法律ヲ恐ル、ノ理ナリ

成年ノ罪ヲ犯ス者ニハ最初ハ唯勸戒ノミヲ加ヘテ刑罰ノ汚辱ヲ與ヘサルヲ要ス而シテ若シ其罪人再ヒ罪ヲ犯スルハ其地位ニ應シテ罰金ヲ科スヘシ此罰金ハ少クモ其犯罪ニ由テ生シタル損害ニ倍スルヲ要ス而シテ尙ホ遷善セサル者ハ之ヲ禁獄シ且ツ之ニ科スルニ告訴ト禁獄トノ入費ヲ以テスヘシ而シテ若シ其罪人此入費ヲ拂フヲ得サルハ勞役ヲ以テ之ヲ償ハシム又或ハ之ヲ身代限ノ處分ヲ受タル者ノ如ク處分シ民權ヲ剝奪スヘシ即チ此三新設法ヲ以テ罪惡ト懲罰トチ相抗衡セシメ罪人ヲシテ遂ニ其敵シ難キヲ知ラシメ法律ヲ恐ル、ノ念ヲ發

起セシムヘキナリ

假令ヒ罪囚何程狡猾ノ智力ヲ用フルモ人民一般ヲ敵トシテ何ソ其力ヲ保有スルヲ得ンヤ

罪人ヲ禁獄スルハ學校ニ入ラシムルニ同シク道德宗教職業等ノ教授ヲ其内ニ受ケシムヘシ然ルハ出獄ノ時惡念尽ク改更セサルモ入獄ノ際ニ於ルヨリハ遙カニ善良ノ心ヲ有スルニ至ル者ナリ是レ既ニ經驗セル結果ナリ

若シ又其罪囚ノ犯ス所一年以上ノ禁獄ニ處セララルヘキモノナルハアイリシ、ミス、テ、ト稱フル方法ニ隨ハシムヘシ此方法ハ實ニ能事ヲ極メタル方法ニシテ人ノ性質ヲ新タニシ罪人ヲシテ再ヒ人間ニ交際ヲ得セシムルノ法是ヨリ密ナルハナシ斯ノ如クニシテ尙ホ其利益ヲ拒ミ決心シテ惡事ニ身ヲ委スルカ如キ者ハ警察吏ノ監督ヲ以テ其



罪惡ヲ防遏スヘシ而シテ尙ホ罪ヲ犯スニ至レハ嚴科ヲ蒙ルハ罪人ノ自  
 ヲ知ル所ナリ  
 精神ノ錯亂セシ者ニ非レハ既ニ其寬仁ナル人民社會ノ堅固ナル鎮城  
 ニ抵抗シ遂ニ嚴刑ニ處セラレ、チ知リツ、好シテ敵スルモノハ非ル  
 ヘシ  
 右ニ掲ケシ所ノ豫防法ハ惡人ヲシテ心服シテ善ニ遷ラシメ若シ心服  
 セサレハ壓力ヲ以テ法律ニ服從セシムルノ法ニシテ罪惡ノ大部分ヲ  
 滅殺スルニ足ルヘキナリ  
 トマツト氏言ハスヤ利益ト恐怖トニ因テ罪惡ヲ退クヘシト實ニ此金  
 言ノ如クニシテ能ク遷善豫防ノ目的ヲ達シ得可キノミ  
 一千八百七十四年

七月二十八日

マルサンゾー拜

第一章 總論

第一條 交際上ノ正道ハ實ニ造物者告クル所ノ正道ニシテ人ノ性質  
 ノ善不善ヲ區別シ其所業ニ應シテ欸待スル所ノ者ナリ

法律上ノ正道ハ刑罰ヲ行ヒ公衆ノ安全ヲ保チ罪人ヲ改良スルヲ主  
 意トス

裁判官ハ罪ノ輕重ヲ度リシ後チ更ニ其罪人ヲ度チ要ス而シテ此二者  
 チ合シテ以テ其罰ノ輕重ヲ定ムルノ衡平ノ秤トナスヘキナリ  
 若シ其罪ヲ度テ其人ヲ度ラサルキハ刑罰ヲ其罪ノミニ及ホスノ理  
 ニシテ其人ヲ懲戒シ其人ヲ善ニ遷ラシムルノ意ニ反スルナリ豈ニ  
 之ヲ文明仁徳ノ正道ト云フヘケンヤ

第二條 道理正義仁惠ヲ基礎トスル所ノ懲戒方法ヲ制セントスルニ  
 當テハ先ツ之ヲ左ノ六項ニ分ツテ論スルヲ要ス



第一 罪惡ト刑罰トヲ定ムルヲ(刑法ニ屬ス)  
 第二 罪惡ヲ防制スルヲ(豫防法ニ屬ス)  
 第三 罪惡ヲ壓抑スルヲ(刑事辨理法ニ屬ス)  
 第四 罪惡ヲ罰スルヲ(懲戒法ニ屬ス)  
 第五 放解放後再ヒ之ヲシテ世間ニ交際ヲ得セシムルヲ  
 第六 放解放後再ヒ之ヲシテ世間ニ交際ヲ得セシムルヲ  
 此六者ハ各相關係スルヲ最モ密ニシテ若シ其一ヲ變動スレハ隨テ他  
 モ動搖セラルヲ得ス是即チ今日ニ至ル迄其改正ヲ充分ニ成シ能ハ  
 カリシ所以ナリ  
 第三條 罪惡ヲ區別シ刑罰ヲ定ムルヲハ昔日ヨリ今日ニ至ル迄立法  
 家ト刑法家ノ多少思考ヲ費ヤセシ所ナリ  
 完全ナル刑法ハ人ノ名譽自由安全幸福繁榮ヲ直接或ハ間接ニ妨得ス

ル所ノ者ヲ防禦壓抑スルモノナリトス實ニ如此キ刑法ハ人間ノ交際  
 ナ安全保護スル爲メニ必要ナルモノト云フヘシ  
 故ニ懲戒法ヲ改正セント欲スルニハ必ス先ツ刑法ヲ改正スルヲ要ス  
 此二者ハ一ヲ改メテ一ヲ改メルルヲ得ルナリ佛國道德學校ハ一千  
 八百四十五年ニ當リ刑法ヲ懲戒法ヲ最上ナルモノト合一セシメテ論  
 セシモ全ク右ノ理ニ原クモナリ  
 完全ナル刑法ト最良ナル懲戒法ト相合スレハ罪惡ヲ滅スルハ疑ナ容  
 レサル所ナリ故ニ之ヲ以テ一國ノ道德風俗安全繁榮ヲ保ツニ必要ナ  
 ルモノト云フヘキナリ  
 此目的ヲ成就セントスルニハ刑法ト懲戒法トヲ以テ人間交際ノ確然  
 タル條約ノ如ク作ラサルヲ得ス  
 法律ハ人民ノ風俗ヲ改良スルヲ以テ主意トスルヲ要ス何トナレハ正



シキ風俗ハ又能ク法律ヲ保護スレハナリ如此キ高尙ナル意ヨリ出テ  
 サル所ノ刑罰法ハ何ソ罪惡ヲ改良スルノ力ヲ保ツコトヲ得ンヤ啻ニ外  
 面上ノ安全ヲ得ル爲メノ法則ニシテ姑ク罪惡ヲ制御スルノ疎法ト云  
 フニ過キサルヘシ  
 立法權ハ刑法ヲ以テ教法ト全ク異ナルモノト考フルノ誤リニ陥リ偶  
 像ノ時代ニ於テ宗教師セイント、シヨロームガ演述シタル耶蘇ノ法則  
 ハ王旨ノ法則ト別種類ナリト云フ語ヲ以テ今代ニ適用セントスルカ  
 如シ宜ナル哉懲罰法ノ不充分ニシテ常ニ其目的ヲ達スル能ハサルコ  
 ナ  
 然レモ王者ノ法則ハ耶蘇ノ法則ト尽ク同シト云フニハ非ラサルナリ  
 譬ヘハ王法ハ現在ノ利害ヲ制シ教法ハ未來永世ノ事ヲ示ス又王法ハ  
 其管理ノ及フ所只人ノ行事ニ止リ教法ハ人ノ本心思想ニ及フ

然レモ此二者ハ其主意ヲ異ニセス正道ヲ以テ其目的トス是即チ懲罰  
 法ノ教法ト一致シテ一般ノ道德ヲ治ムルコトヲ要スル所以ナリ即チ懲  
 罰法ハ教法ノ如ク仁惠ト正道ノ并ヒ行フコトヲ要スルナリ  
 第四條 然レモ假令刑法完全ナルコトヲ得ルモ罪囚ヲ扱フノ法充分ナ  
 ラスシテ其壓抑ハ以テ不公平ヲ極メ其懲罰ハ以テ不適當ヲ專ラニシ  
 而シテ其改良セサルノ罪囚ヲ放ツノミナラズ却テ以前ヨリ邪惡ノ増  
 長シタルモノヲ放チ且ツ偶々遷善ノ罪囚ヲ放免セラレテ世ニ出ツルモ  
 人ノ之ヲ扶シルモノナク自ラ食ムノ道ナキヲ以テ遂ニ復ヒ罪惡ニ陥  
 ル如キ實況ヲ顯ハスニ至テハ此完全ナル刑法モ無用ニ屬ス可キナリ  
 第五條 罪惡ヲ豫防スルノ術ハ今日ニ至ル迄尙ホ目シテ以テ仁術ノ  
 大ナルモノトナセリ人民ヲシテ邪惡ニ陥ラシメス之ヲシテ善良正直  
 ナル人ト爲シ之ヲシテ法律ヲ恐レ且尊マシムルノ事業ヲ以テ神聖ト



云ハスシテ何ソヤ實ニ高貴ナル目的ヲ果ス可キ一大事業ト云フヘキナリ

此ノ事業ノ如キハ實ニ道德上ニ關スル職務ノミニアラズ又政事上ノ一要務ニシテ後來ノ安全ヲ保シムルニ必要ナルモノト云フヘキナリ

第六條 刑法ノ目的ヲ分ツテ三トス曰ク罪人ヲ捕フルナリ曰ク罪人ヲ罰スルナリ曰ク罪人ヲシテ遷善セシムルナリ

第七條 國ノ法律ヲ破ル者ハ人民ノ安全ヲ害スル者トス故ニ之ヲ社會中ニ居ラシムルハ甚ク危キナリサレハ之ヲ罰シ之ヲ改正スルノミ然シテ刑罰ヲ加フルモ尙ホ善ニ遷ラサルハ之ヲ社會ニ放ツト亦同シク危キナリサレハ之ヲ警察吏ノ監督ニ付スルヲ要ス  
又假令懲罰其目的ヲ達シ得ルモ放免セラレシ後之ヲ容ル、ノ親族ナ

ク之ニ適スルノ商業ナク爲メニ生活ヲ得ルノ道ナキハ遂ニ復タ惡業ヲナスニ至ルヘキナリ故ニ人民ハ慈母ノ愛ヲ懷イテ之ニ適當ナル地位ヲ與ヘ以テ生活ノ道ヲ得セシムルヲ要ス而シテ若シ放免セラレ、ノ罪人幼年者ナレハ社會ハ尙ホ一層此ニ注意スルノ義務アリトス  
又刑罰其度ニ適シ能ク罪人ヲ改正シ罪人ハ放免ノ後充分ニ扶助ヲ得自ラ食ムノ地位ヲ占メ正直ナル人民ノ一人トナリ漸クニ職業ヲ起シ法律ヲ遵守スルノ民トナルニ及ンテハ罪惡ノ爲メニ嘗テ沒收セラレタル權利ヲ回復シ再ヒ民權ヲ有スル一民トシテ交際ヲ保ツト得ヘシ即チ斯ノ如クセシムルハ社會ノ施サ、ルヲ得サルノ仁惠ト云フヘシ

第二章 防惡法

第一條 流水ヲ清淨ナラシメントスルコトハ之ヲ清淨ナラシムルノ器



具チ其水源ニ用フルヲ要ス是レト同轍ニ人ヲシテ善良ナラシメン  
ト欲セハ幼年ノ時之ニ充分ナル教育ヲ與フルニアリ何トナレハ罪惡  
ノ源因ハ無學賤劣ノ幼年者ニアレハナリ  
試ミニ成年ノ罪者ニ其惡念ノ興起ヲ問ヘ皆其最初ハ幼若ノ時ニアリ  
ト云フ者多カラン

幼年者ヲ邪道ニ誘クノ原因ニアリ曰ク第一教育ノ充分ナラサルニ源  
スルナリ第二父母ノ不徳貧賤ニ因スルナリ故ニ幼年者ヲ教育スルハ  
今日ノ急務ニシテ人間社會ニ在テ須臾モ忽セコナス可ラサルノ義務  
トス實ニ教育ニ一大進歩ヲ與フルハ罪惡ヲ減少スルヲ以テ最上法ト  
云フヘキナリ

第二條 今若シ懲罰ハ遂ニ罪ヲ亡ホスヘシノ古語ヲ取テ眞ナリトシ  
テ適用センカ然ルルハ即チ之ニ本ツク所ノ法律ハ狂悖ノ性質ヲ有ス

ルモノト云可キナリ何トナレハ罪人ハ懲罰ヲ恐ル、ノ念ヨリ惡事ヲ  
爲ノ念壯旺ニシテ罪ヲ犯スルニ當テ罰ノ輕重苦痛ヲ思考スル者アラ  
サレハナリ

百人ノ罪囚中通常ノ教育ヲ受タル者三人ニ過クヘガラス即チ教育ヲ  
得タル者ノ罪ノ恐ルヘキヲ知ルヲ証スルニ足ル

故ニ罪惡ヲ防禦スルハ教育ニアリトスルナリ

道學師ウヰクトルコーシン曰ク我ハ囚獄ニ力ヲ尽シテ學校ニ尽サ、  
ルヲ憂フト實ニ然リ人民ノ教育ハ豫防法ノ基礎ト稱スヘキナリ

第三條 罪惡ヲ防禦スルハ人間社會ノ義務ナリト雖也又人智ヲ以テ  
防ク能ハサル所ノモノアリ即チ一時ノ情慾ヨリ意外ノ惡念ヲ發スル  
如キ是ナリ然リト雖也右ノ如キハ其數常ニ少キモノニシテ却テ前徵  
ヲ發現スル所ノ罪惡多キニ居ルモノトス而シテ此前徵顯ル、ルハ社會



直チニ之ヲ監護シテ惡ヲ行ハシメサルヲ義務トスブレッキストン氏曰  
 シ惡ヲ防クノ法ハ惡ヲ罰スルノ法ニ勝レリト  
 人ヲ邪道ニ誘クモノ脱罰ノ望ミヨリ甚シキモノアラサルナリ何トナ  
 レハ罪人ハ百人ノ中捕ハレテ罰セラル、モノ僅カニ五十八ニ過キカ  
 ルヲ能ク知レハナリ  
 不幸ニシテ人間社會ハ常ニ罪ノ行ハル、ヲ待テ之ヲ探リ之ヲ罰スル  
 ヲ習ヒトス而シテ自由ノ尊重ト稱シテ自ラ異マサルハ勝ケテ歎ス  
 ヘキノミ  
 英國ニ於テハ亂暴人亂暴人醜業ヲ爲ス者等ノ種類ヨリ正シキ行狀ノ  
 保証書ヲ出サシメ若シ之ニ背クトキ懲罰ヲ加フルヲ法トスルアリ又  
 或ハ人民ヲ脅カシ世間ノ安全ヲ破ラントスルノ疑ヲ受ケシ者ヨリ安  
 穩ノ保証書ヲ取ルヲアリトス

此慣習ハ甚ダ巧便ナルモノニシテ以前ハ佛國ニ於テモ適用セラレ大  
 ニ功ヲ奏シタリキ  
 第四條 人間社會ハ他ニ善道ヘ導クノ法ヲキキコアラサレハ同社會  
 ノ人ニ刑罰ヲ加フ可ラス蓋シ妄リニ刑罰ヲ加フルハ誤レリト謂フヘ  
 シ何トナレハ刑罰ハ不得已ニ出ルノ方法ナレハナリ  
 佛國ニ於テハ輕罪ノ罰チ一日ノ禁獄或ハ「フランク」ノ罰金ニ減スル  
 ヲ得ヘシト雖モ之ニ全免ヲ與フルヲ許ルカス蓋シ法律ハ罪アレ  
 ハ罰アルヲ要スル具ナレハナリ  
 此法則ヲ興起スル所以ヲ見ヨ裁判官ハ些微ノ罪ニ罰名ヲ與ヘ罪人ノ  
 本心ヲ苦シマシムルニ忍ヒス故ラニ法律ニ背キ其罪ノ証蹟充分ナラ  
 ストシテ之ヲ放ツヲ屢ナリトス而シテ之ニ因テ又三個ノ惡結果ヲ生ス  
 卽チ一ハ眞正ナラサルノ裁判ニハ抑壓ノ欠乏三ハ社會ニ大費ヲ與フ



ル是ナリ是即チ壓抑法ヲ必要トスル所以ナリ蓋シ壓抑トハ罪人ノ精神ヲ壓抑スルノ法ニシテ禁獄及罰金ノ如ク人ノ名譽ヲ損フコトナクシテ人ノ心ヲ責ムルカ故ニ亦仁惠ノ處分トモ云フヘキナリ

英國ノ裁判所ニ於テハ昔ヨリ今ニ至リ尙ホ此法ヲ用ヒ來レリ余カ英國慣例ニ尊重ヲ與フル所特ニ此点ニ在リトス

第五條 刑事目錄ハ我佛國ニ在テハ一千八百五十年ニ創定スル所ニシテ防惡上大ニ功ヲ奏シタリ而シテ近年ニ至テ葡萄牙伊太利ノ適用スル所トナレリ此法追々擴充シテ文明諸國ノ尽ク用ユル所トナラント余ノ深ク信スル所ナリ

此刑事目錄ハ衆罪人ノ傳記ヲ巨細ニ知ラシムルカ故ニ裁判官ハ其前罪ノ有無輕重ヲ權衡シ罰ヲ定ムルノ便利ヲ得ヘシ  
又刑事目錄ハ罪惡ヲ防禦減少スル点ニ至テモ功驗アリトス

何人タリトモ若シ一回罪ヲ犯スルハ必ス其醜名ヲ本國ノ簿籍ニ登錄セテレ父母妻子兄弟ノ知ル所トナルヲ前以テ知ルヲ得ハ何ソ敢テ之ヲ犯スモノアラゾヤ

猛惡殘忍ノ罪人ト雖モ其惡業ヲ已レノ妻子老父母ニ聞カシメ之ニ憂悶ヲ與フルハ忍ヒサル所ナルカ如シ

嘗テ謀殺ノ罪人刑場ニ臨ンテ云ヘルコトアリ我ニ母アリ我罪惡ヲ聞カハタメニ命ヲ絶セン仰キ願フハ之ヲ母ニ知ラシメサランコトナト

思フニ此ノ如キ貴フヘキ心術ノ還テ邪毒ノ精神中ニ存スルコト常人ノ想像スル所ヨリ多シトス邪惡ノ人タリトモ均シク是レ人類ナレハ徳ヲ尊ヒ善ヲ慕フノ性情終始自ラ滅スルコト得サルナリ而シテ刑事目錄ハ此善徳ヲ慕フノ情ヲ引起スカ故ニ防惡ノ方法中第一等ノ地位ヲ占ルモノト云フヘキナリ



何程親類ト隔絶シタル人ナリトモ一惡事ヲ行フニ當テハ其親族ニ憂  
 愁失望耻辱等ヲ與フルコト知ラサルモノハアラサルナリ  
 往昔希臘ニ於テハ兒ノ功名ハ父ニ名譽ヲ與ヘタリト云ヘリ刑事目錄  
 モ亦善惡處ヲ異ニスト雖同様に成蹟ヲ生スト云フヘシ一子惡ヲ  
 行ヘハ父母親族ノ名譽ヲ穢シ永ク記録ニ惡名ヲ止ムヘシ  
 父ハ法律ニ於テ其子ニ對テ若干ノ權ヲ有スルカ故ニ若干ノ點ニ關シ  
 テハ其子ノ惡事ニ自ラ責ヲ有スヘキモ亦宜ナラスヤ故ニ父ハ其子ノ  
 教育ニ特殊ノ注意ヲ與ヘ親族ノ汚名ヲ永世ニ殘サ、ラシムルヲ要ス  
 何トナレハ人ノ善惡ハ多ク教育ノ有無淺深ニ關スレハナリ  
 第六條 人民社會ハ未ク斷罪セラレサル者ヲ取扱フニ當テハ最モ注  
 意シ之ニ汚辱ヲ與ヘサルヲ要ス而シテ既ニ處刑ノ申渡ヲ受ケタル者ト  
 未ク受ケサル者トハ其性質全ク異ナリトス即チ一方ハ無罪人ニシテ

一方ハ罪人ナルノ區別アリトス

此二者ハ如此性質ノ差違アリト雖モ尙ホ實際之ヲ取扱フニ當テハ相  
 混合シテ同一ノ獄ニ入ラシムル所多シトス  
 此惡習ヲ改正スルニ非レハ防惡勸善ノ目的ヲ果シ得ヘカラサルナリ  
 然リト雖モ審問中ニ在ル者ト判決ヲ經タル者トヲ區別スルノミニテ  
 ハ以充分ナリトスルニ足ラス審問中ノ者ノミト雖モ又之ヲ各個ニ區  
 別シ尽ク別室ニ在ラシムルヲ必要トスルナリ  
 審問中ノ拘囚ハ久シク我國ニ在テ其惡疫ヲ公衆ニ流傳セリ老幼有罪  
 無罪重罪輕罪相混シテ一室ニ雜居セシメ未ク有罪ト定ラサル者或ハ  
 善良ノ心充分ニ存シテ容易ニ改正スルヲ得ヘキ者ヲ殘忍猛惡ノ徒ト  
 交ハラシムルハ實ニ不正不法ノ處置ト云フヘキナリ  
 審問中ノ者ヲ拘囚スルニハ必ス獨個ノ囚房ニ在ラシムルヲ要ス何ト



ナレハ若シ其囚人無罪ノ申渡ヲ受ルハ之ヲ其親族ニ引渡スニ以前  
拘囚セシ時ト同様ナル精神ヲ存セシムルヲ要スレハナリ  
一千八百四十四年佛國控訴裁判所二十七所ノ中二十三所ハ拘囚獄ヲ  
改正シ各人各房ノ製ニ習ハンコノ説ヲ主張シタリ而シテ一千八百七十  
三年遂ニ其議定スル所トナレリ

第三章 懲戒法

懲戒法ヲ巧ミニ設クルニ當テハ政府ハ之カ爲メニ入費ヲ要スルコト  
ルヘカヲサルナリ今左ニ其方法ヲ陳述セン

第一 罪惡ノ輕重ニ應シテ可成丈ケ罰金ヲ科シ或ハ便益ナル勞役ヲ  
爲サシムヘシ而シテ此罰金勞役ハ必ス其罪ニ因テ生シタル損害ニ倍ス  
ルヲ要スヘシ

第二 禁獄ノ罰ニ代フルニ罰金ヲ以テシ可成丈罪人ノ自由ヲ束縛ス

ルノ罰ヲ減スヘシ

第三 罪惡ノ利益器具等ヲ沒収スヘシ

第四 判決ヲ受タル罪人ニ審廳及ヒ刑罰ノ入費ヲ拂ハシム若シ其罪  
人拂ハサルカ或ハ拂フ能ハサルハ民權ヲ剝奪スヘシ

第五 懲罰ノ勞役上ヨリ出ル所ノ利益ハ政府ノ利益トナスヘシ

第六 再ヒ罪惡ヲ犯スルハ罰金及ヒ禁獄ヲ増加スヘシ

第七 父ノ命令ニ従ハス或ハ府民助力ノ義務ニ背ク者ヲ責ムルノ法  
ヲ嚴ニスヘシ

第八 判決ニ依テ罪人罰金ヲ申渡サル、并之ヲ放免スルノ方法ヲ設  
クヘシ

第九 自由ヲ束縛スルノ罰ニ代フルニ金錢ノ罰ヲ以テシテ可成丈ケ  
其罪人ヲ免ルスヘシ



此方法充分ニ行ハル、ニアラサレハ罪人ハ益損害ヲ蒙リ年々月々之  
カ爲メ費ユル所倍々莫大ナラソノミ  
即チ罪惡ヲ減少セントスルノ法律却テ罪惡ヲ増加スルハ此ニ源スル  
ナリ

病疫ハ治療スルヲ得サレハ重キヲ加フルハ通常世ノ能ク知ル所ナラ  
スヤ

第一條 罰金ハ懲罰ノ最上等法ト云フヘシ何トナレハ罰金ハ人ノ自  
由ヲ束縛セス身体ニ苦痛ヲ與ヘス抑壓ノ度ヲ精密公平ニ定ムルヲ  
得人民社會ノ富ヲ増セハナリベソサム氏カ罰金ヲ以テ寛仁儉約ノ良  
法ナリト云ヒシモ此理ニ源クナリ

故ニ懲罰ノ方法ハ罰金ヲ以テ基礎トスヘシ

如此人々利ヲ射ルノ世ニ在テハ貨幣ハ最モ罪人ヲ抑壓スルノ力ヲ有ス

人ノ所有中生命ト名譽トニ次ク所ノモノハ自由ト富トニアルヘシ故  
ニ法律ニ於テ生命ト名譽トヲ助ケラレタルモノハ自由ト富トノ二者  
ヲ以テ容易ニ其罪ヲ償フヲ得ヘシ  
些少ノ罪ニ至テハ尽ク罰金ノミヲ以テ罰スルヲ要ス何トナレハ罰  
金ヲ以テ防シテ得ルノ罪科ニ故ラニ禁獄ノ刑ヲ用ヒ人身ヲ束縛ス  
ルノ道理アラサレハナリ  
重罪ニ關シテハ或ハ罰金ヲ用ヒ或ハ禁獄ヲ用フルヲ要ス  
盜賊ハ已チ富ス爲メコ人ノ財ヲ盜ムモノナレハ若シ一千フランクヲ  
盜ミタル盜賊ヲ罰スルニ禁獄ノミヲ以テスルハ其自由ヲ若干時限  
犠牲トシテ一千フランクノ富ヲ失ハサルヲ満足スヘキナリ或ハ之ニ  
一千フランクノ罰金ノミヲ科スルハ差引キ損益ナキヲモツテ罪人  
ヲ抑壓スルノ力ヲ見サルナリ



然レ他之ニ科スルニ其贓金ニ二倍三倍或ハ四倍ノ罰金ヲ以テセハ罪人ハ已レチ富サントシテ却テ貧チ招キタルヲ覺リ以來此損失アルノ所行チ再ヒスヘカラサルナリ

第二條 罰金ハ罪人ノ貧富ニ應シテ其壓抑スル所異ナルカ故ニ罰金モ亦罪人ノ貧富ニ應シテ其分量ヲ定ムルヲ要ス而シテ定ムルハ全シ裁判官ノ權内ニ委ス可キナリ罪人ノ貧富ヲ見ルハ人ノ善惡ヲ見ルヨリハ容易ナリトス

罰金ハ其抑壓スル所貧富共ニ均シキヲ要ス

第三條 若シ罰金ヲ拂フ能ハサル者ニハ勞ヲ以テ之ヲ償ハシムヘキナリ此勞役ヲ以テ罰金ノ高チ償ハシムルノ方法ニ至リテハ容易ニ設制スルチ得ヘキナリ倫敦ノ囚獄公會ニオイテホツ、ユンドルフ氏ノ演述スル所ニ據レハ此代償法ハ普國ニ在テハ既ニ充分ナル實功ヲ奏

シタリト云フ

此方法行ハル、ハ罪人啻ニ貧ナルカ爲メニ禁獄ノ辱シメヲ受ケルヲナシ罰金ヲ拂フ能ハサル者ト雖モ罰金ノ罰ヲ受ルヲ得ヘキナリ

第四章 囚房ヲ別個ニスルノ方法

第一條 囚獄ノ房チ一人一個ニ爲スハ最モ抑壓ノ力チ有シ最モ道德ノ理ニ適シタル方法ナルヲハ衆人ノ異議無キ所ナリ

何故此方法チ道德ノ理ニ適シタルモノト云フヤ罪惡トハ何ソヤ罪人自己ノ意ヨリシテ生スル所ノ所爲ニアラスヤ即チ罪惡ノ根源ハ一人一個ニアラスヤ然ラハ其結果即チ刑罰モ亦一人一個ナルヘキノ理ナリ

又此方法勸善ノ法ニ適スルモノト云フヘシ何トナレハ罪人一個一室ニ在テ靜カニ事物ヲ思考スレハ自然本心ノ責ニ因テ其罪チ悔悟スル



一多ケレハナリ加之傍教導師及ヒ官吏ノアルアツテ時々ニ教ヘ刻々  
 ニ導ク其ハ善徳ニ復スルノ道之ヨリ近キモノアラサルナリ  
 罪人ノ夥伴ヲ混合シテ同房ニ置キ種々ノ惡業ヲ談セシメ罪惡ノ朋黨  
 ナ成サシメ且ツ惡術ヲ益々上進増殖セシムルハ最モ恐ルヘキ不正  
 不仁ノ處置ト云フヘキナリ  
 獨箇房ノ方法ハ其利益右ニ論スルカ如シ而シテ尙ホ之ヲ用ヒサル所多  
 キハ何ソヤ其原因三アリ  
 一ニ曰ク入費大ナルナリ二ニ曰ク別個ノ禁獄久シキニ至レハ人ノ精  
 神ヲ壓迫シ智覺力ヲ減削スルナリ三ニ曰ク之ヲ放免スルニ當テ再ヒ  
 社會ノ交際ヲ得ルニ妨碍ヲ爲スナリ  
 故ニ此弊害ヲ除カントスルニハ必ス之ヲ斟酌折中シテ用ヒサルヲ得  
 カルモノトス

第二條 一年一月以下ノ禁獄ナレハ別個ノ禁獄ヲ以テ最上等ノモノ  
 トス何トナレハ其罰法殘酷ナラスシテ懲戒ノ法ニ適シ又能ク勸善ノ  
 道ニ當レハナリ

一年一月ヲ以テ別個ノ禁獄ノ限期トナス其ハ精神及身体ヲ害スルコ  
 ナク放解ノ後容易ニ社會ノ幸福ヲ保ツコトヲ得ヘシ而シテ又建築ノ入費  
 モ莫大ナルヲ要セサルヘシ何トナレハ一室ハ數多ノ罪人ヲ順次ニ入  
 ル、コトヲ得ヘケレハナリ

此禁獄法ハ實際必ス大ニ功ヲ奏スヘキナリ何トナレハ行刑表ヲ以テ  
 見ルニ罪囚ノ四分ノ三ハ一年以下ノ禁獄ニ處セラル、者ナレハナリ  
 此禁獄法ヲ實地適用セシ所ノ諸國ハ尽ク好結果ヲ得ルノ満足ヲ有セ  
 リ故ニ禁獄年限ノ少キモノハ別個ノ禁獄ニ處スルヲ最良法トス  
 一年以上ノ禁獄ナレハ之ヲ其罪囚ニ撰ハシムルモ障ケナシトス



第三條 若シ精神及身体ニ損害ヲ與フルコトナクシテ行ハル、其ハ假  
ニ長キ年限ノ禁獄ナリトモ乃チ此法ヲ用フ可シト雖モ人類ノ性トシ  
テ數年ノ間別個ニ禁獄セラレ、其ハ精神及身体ノ氣力ヲ減殺シ癆病  
ヲ引起スノ恐アリトス即チ數年間別個ニ禁獄スルハ數年間生キナカ  
ラ葛中ニ居ラシムルト其理同シキナリ又別個ノ禁獄チ數年ニ及ハシ  
ムル其ハ其入費莫大ニシテ且ツ之ヲ放ツニ當テハ身体精神勞疲シテ  
自ラ生計ヲ營ムノ力ナク再ヒ社會ノ幸福ヲ有ツコト能ハサルニ至ルヘ  
シ

余カ自ラ考フル所ニヨレハ長キ年限ノ禁獄ハ其數五百人ニ過サル四  
人ヲ入ル可キ囚獄ニ於テ行フヘシ而シテ此ノ囚獄ハ既ニ一千八百四十  
六年ニ余カ著述セル所ノ獄制ニ從フコト要ス

此獄制ハ一千八百五十七年ニ當テ英國ノ適用スル所トナリ又アイ

ランドニ於テハウチトトルクロフトン氏ニヨリテ巧ニ實施セラレ  
以來之ヲ名ケテ「アサリン」獄制ト稱ス

第四條 刑罰ノ目的ハ何ソヤ曰ク罪人ノ心ヲ改良シ之ヲシテ再ヒ罪  
惡ヲ行ハシメサルニアリ

此目的ヲ達セント欲セハ徒ラニ刑罰ヲ以テ罪人ノ身体ノミニ加ヘス  
シテ其精神及智力ノ上ニ置クヲ要スヘキナリ故ニ此目的ヲ達スルニ  
ハ第一ニ罪惡ノ實因ヲ發見スルニアリトス

此實因ハ懶惰ニアリヤ貧困ニアリヤ不行狀ニアリヤ曰ク否是等モ亦  
次級ノ源因ヲ爲スト雖モ眞ノ實因ニアラサルナリ實因ハ智力ノ乏シ  
キト本心ノ怯弱ナルニアルナリ

故ニ罪人ノ怯弱ナル部分ヲ強壯ニシ之ヲ放ツニ當テハ以前邪道ニ誘  
キタル所ノ惡敵再ヒ來テ之ヲ誘ハントスルトモ確手トシテ之ヲ拒ミ



善ヲ愛シ正ヲ慕ヒ身ヲ護シ法律ヲ恐ル、ノ念ヲ充分ニ具有セシムル  
一ヲ要ス

邪惡ノ眠ヲ覺マスモノハ悔悟ノ響音ナリ此悔悟ヲ引起スモノハ教諭  
ト實考トニアリ而シテ此教諭ト實考トチ充分ニ達セントスルニハ罪人  
チシテ閑靜ナル場處ニ在テ寂寥トシテ單坐獨考セシムルニアリ故ニ  
罪人チ混合ノ獄ニ入ラシムル前若干時限別個ノ室ニアラシムルヲ必  
要トス若シ此法チ行ハサルトキハ決シテ刑罰ノ目的ヲ達スルヲ能ハ  
サルモノトス是即チ入獄ノ時入湯セシメ傳染病ノアラサルヲ檢シ後  
チ之ヲ入ル、ト其理同シク先ツ其惡疫ノ性質ヲ檢察シ罪囚チシテ寂  
寥ナル處ニ在テ自己ノ罪ヲ考ヘ其惡タルヲ顧念シ悔悟スルノ後チニ  
アラサレハ直チニ之レヲ混合セシムヘカラサルナリ此別個ノ室ニ在  
ラシムルノ法ハ改惡ノ初步ニシテ悔悟ノ念ヲ起シ道德ノ光ヲ復スル

ハ此時間ニアリトス是即チ別室ノ法ヲ以テ懲戒獄制ノ基礎トナス所  
以ナリ

故ニ囚人ノ懲戒獄ニ入ルモノハ必ス先ツ別個ノ室ニ一年ニ過キサル  
時間居ルヲ要ス此方法ハ人ノ健康ヲ害セスシ懲戒ノ主意ヲ全ウス  
ルモノト云フヘシ

此別個禁獄中ハ職業ヲ止メ外來ノ書狀及見舞ヲ禁シ箇々必要ノ衣食  
ヲ供給スルニ止マラシメ總テノ交際ヲ斷絶スルキハ自然當時ノ苦心  
ヲ思ヒ其源因ヲ爲ス所ノ罪ヲ反顧シ之ヲ恐レ之ヲ悔ユルニ至ルヘキ  
ナリ此時ニ際シテハ囚獄ノ幹事或ハ教導師ノ訪尋ハ其罪囚ノ爲メニ  
ハ地獄ノ佛ニ於ケルカ如クニシテ悅ンテ其問ニ答ヘ好ンテ其教ヲ受  
クヘキナリ

斯ク悔悟ノ念ヲ起サシメシ後之ニ其囚獄ノ組立及職業ノ課定并ニ其



產物ノ實價ヲ知ラシムルヲ要ス  
 寂莫ヲ厭フノ情盛ナル者ニ當テ職役ニ着カシムレハ罪囚ハ悦ンテ其  
 職業ニ從事シ謹テ技術學問道德ノ教ヲ受クヘキナリ  
 今更ニ云フヲ要セサル程ノ事ナカラ別個ノ禁獄終フル前ニ當テハ罪  
 囚ノ食物ヲ稍々増加シ其銳氣ヲ養ヒ役ニ着カシムルノ備ヲナスヲ  
 要ス  
 役場ニ在ル所ノ罪囚ハ盡ク別個ノ禁獄ヲ經教導師ノ教ヲ受ケ己ノ惡  
 ヲ顧ミ之ヲ悔ヒ法律ヲ恐ル、ノ念ヲ生シ職役場ノ寛大ナル取扱ヲ悅  
 ヒ再ヒ別個禁獄ノ苦ヲ受ルヲ恐懼スル者ナレハ相混合スル共互ニ  
 惡ヲ談シ邪ニ流ル、ノ如キ弊害ナカルヘシ其罪囚ハ却テ職業ヲ樂ミ  
 放免ノ後ヲ自由ノ職業ヲ得ルノ方法ヲ需ル者多カルヘキナリ  
 第五條 惡ヲ改メ善ニ遷スハ漸ク以テセサレハ能ハカルモノトス

別個ノ禁獄終レハ直チニ其罪囚ヲ工役場ニ入ラシムル歟或ハ之ヲ農  
 役ニ着カシムルヲ要ス而シテ若シ罪囚役場ニ於テ不正ノ行跡アルト  
 ハ再ヒ之ヲ別個ノ禁獄ニ處スヘキナリ  
 役場ニ在ル所ノ罪囚ノ行狀ヲ察知シ其懶惰ヲ付度シ各之ニ点表ヲ附  
 シ而シテ其行狀不正ナリト認メ得ルモノハ再ヒ之ヲ別個ニ禁獄ス  
 若シ罪囚行狀正シク從順ニシテ職業ヲ勵ム者ハ之ヲ他ノ役場ニ移ラ  
 シム此役場ニ於テハ衣食共ニ初級ノ役場ヨリ勝レタルモノヲ供給シ  
 懲戒法亦大ニ寛ナリトス而シテ此役場ニ居ル所ノ者ハ其職業ノ爲メニ  
 若干ノ給金ヲ與フルヲ法トス斯クシテ得ル所ノ金員ヲ以テ出獄ノ資  
 本金トナサシム而シテ又行狀ニ善惡ノ表点ヲ附シ若シ善ナレハ之ヲ第  
 三級ノ役場ニ移ラシム  
 此役場ハ上ニ述タル二場ニ比スレハ物々良好ナラサルナシ此役場ニ



於テモ他ノ役場ニ於ルカ如ク囚人ノ懶惰不正ヲ罰スルニハ或ハ之ヲ  
 下等ノ役場ニ移シ或ハ之ヲ別個ニ禁獄ス而シテ又囚人中最も正直ニシ  
 テ職業ヲ勵ム者ハ之ヲ最上級ノ囚獄ニ移ラシム  
 此囚獄ハ他ノ三場ト其性質ヲ異ニシ通常人間ノ處有スル權利自由ノ  
 半部分ヲ與フル場所トス  
 此場處ハ既ニ惡ヲ改メテ善ニ遷リタルト見做サル、者ヲ賞スルノ地  
 ニシテ此處ニ在ル者ハ信用ヲ置クニ足ルヲ一一般人民ニ知ラシメ放  
 免ノ後チ世ノ非斥ヲ受ケサラシムルヲ目的トス  
 既ニ論セシ如ク罪囚ヲシテ惡ヲ改メ善ニ遷テシムルモ放免ノ後チ世  
 間一般之ニ信用ヲ置カス之ヲ擯斥シテ容レズ貧困之ニ次キ饑渴隨テ  
 逼リ失望ノ餘リ遂ニ遁レテ罪惡ニ陷ルニ至ルキハ改惡ノ功ハ全ク消  
 滅スヘキナリ故ニ放免ノ後チ罪人ヲシテ一般人民ノ信用ヲ得一人一

個ノ權利ヲ全クシ能ク其産業ヲ保タシムルノ方法ヲ設クルヲ必要ト  
 スルナリ

第六條 罪囚數級ノ役場ヲ經過シ放免ノ期近キニ至ルキハ其惡念ハ  
 全ク絶エ德行ノ人トナリ之ヲ放ツモ社會ニ害ヲ與フルノ憂ナキヤ否  
 ナ知ルハ欠ク可ラサルノ一事ニシテ此最上獄ノ目的此ニアルナリ  
 此囚獄ハ番兵ナク鎖門ナク記号ナク懲戒罰ナク其他總テ囚獄ノ想像  
 チ起スニ足ル所ノモノナキナリ

此囚獄ハ殆ント製作場或ハ農場場ニ同キ景狀ニシテ獄内ニアル者ハ  
 囚人ニアラスシテ業已ニ職人ナリ其職業ヨリ出ル所ノモノハ盡ク彼  
 カ所得トナリ此場所ヲ警護スル者モ已レノ中間中ヨリ撰出サレタル  
 人ナリ又休日ニハ親族朋友ヲ訪フノ自由ヲ許ルサルヘシ時ノ場合ニ  
 ヨリテハ此囚獄ノ利益ノ爲メニ外出シテ職業ヲ爲サシムルヲアリ



如斯自由ノ囚獄ハ罪人ニ遁逃ノ機會ヲ與フルナリトノ疑問アリシカ  
余ハ之ニ答テ曰ン否囚人ハ決テ逃亡セサルナリ如此自由ト信用トヲ  
受ルトコロノ囚人ハ悦ンテ規則ヲ守リ更ニ自ラ他ノ囚獄ニ入ルノ恐  
ヲ招カサルナリ

此囚獄ニ在ル所ノ囚人中特別ニ行狀正キ者ハ之ヲ賞スルニ或ハ全免  
ヲ以テシ或ハ未必免ヲ以テスヘシ

未必免ノ方法ハ余カ著ハセシ所ノモノニシテアヰルランド及ヒイ  
グランドニ於テ之ヲ實施スルコト既ニ十七閱年ニ至レリ其制皆精巧ヲ

極ムト雖モ就中ノルウチトトルシロフトン氏ノ制ヲ以最一トス

アイルランドノ囚獄年報ニ據ニ一千八百七十一年ニ未必免ヲ受タル

二百六十五人ノ中此免許ヲ奪ハシタル者僅カニ二十三人百分ノ八ナ

リト

一千八百七十一年八月三十日ニ議定セラレタル日耳曼帝國新刑法ノ

二十三項ニ曰ク長キ年限ノ禁獄ニ處セラレシ者ハ其行狀正シクシテ

其年限ノ四分ノ三ヲ終レハ未必免ヲ受ルコトヲ得ヘシ然レモ未必免ヲ

受クル前少シモ必ス一年ヲ經過スルコトヲ要ス

其二十四項若シ其罪囚不正ノ行狀アルカ或ハ未必免中ノ職務ヲ欠ク

トキハ未必免ノ免許ヲ剝奪ス此場合ニ於テハ未必免中ノ日數ヲ刑罰

申渡ノ日限ニ加ヘス

其二十五項未必免及其剝奪ノ指令ハ裁判所ノ權内ニアリトス

未必免ノ指令ハ囚獄ノ報告ニ依テサレハ之ヲ出ス能ハサルモノトス

未必免ノ罪囚世上ノ安全ヲ妨クル者ト認ムルハ其所ノ警察吏之ヲ

捕縛スルノ權アリトス

其二十六項未必免剝奪ノ指令ヲ受サル者ハ刑罰申渡ノ日限終レハ其



刑罰既ニ終ヘタリトセラル、ナリ

右ニ述ヘタル數多ノ方法ヲ實用セハ別個禁獄混合禁獄トモ充分ニ功  
ヲ奏スルコトヲ得刑法ノ大目的即チ改惡遷善ヲ全ウスルコトヲ得ヘキナ  
リ

第五章

刑罰ノ入費ヲ罪囚ニ償ハシムルコト

モンタグー氏曰ヘルアリ 人ハ過度ニ失ス人ハ一極ヨリ他ノ極ニ走  
ルノ通弊アリト宜ナルカナ今世償金ヲ用ユルコト少キハ中古償金ヲ用  
フルノ過度ヨリ生シタル弊害ヲ思ヘハナリ中古無罪ノ人ヲ誤テ禁獄  
スルモ尙ホ且ツ之ニ其入費ヲ拂ハシメタリ而シテ此過度ヲ壓止セシハ  
適當ナリト雖有罪者ニ禁獄ノ入費ヲ拂ハシメサルニ至リシモ亦是  
レ過度ニ失セシト云ハサルヲ得ス  
罪惡ハ精神ノ病疾ナリ本心ノ錯亂セシナリ之ヲ治セントスルニ當テ

ヤ必ス刑罰ヲ用フルコトヲ要ス囚獄ハ此病疾ヲ治スル爲メニ設ル所ノ  
病院ナリ病人ハ已レノ病疾ヲ療治スルタメニ費ストコロノ入費ヲ病  
院ニ納メサルヲ得サルナリ  
假令ヘハ此ニ富有ナル一婦人アリ人ヲ殺セシ罰ニヨリテ五年ノ禁獄  
ヲ申渡サレタリ此禁獄ニヨリテ政府ハ一万二千フランクヲ消費セリ  
此入費ハ一般人民ノ出ス所ナリ正直ナル人カ已レニ食ミ子ヲ養フノ  
金額ヨリ此罪人ノ入費ヲ出スナリ是レヲ正道ト云フヘケンヤ然ルカ  
如キハ人民ノ心將ニ大号シテ曰ハントス罪囚ハ已ノ禁獄入費ヲ償フ  
ヘシ罰金申渡サレタル時ト同様ナル方法ヲ以テ政府ニ償フヘシト  
若シ罪人ヲシテ罪ヲ犯セハ畜ニ自由ノミナラス其財産ヲモ奪ハル、  
コトヲ知ラシメハ自ラ其惡念ヲ抑制スルトコロ更ニ深シト云フヘキナ  
リ



又自費ヲ以テ禁獄ノ刑ヲ經タル者ト政府ノ入費ヲ以テ禁獄ヲ經タル者トハ再ヒ罪ヲ犯スニ至リテモ必定大ナル差異ヲ見ルヘキナリ故ニ禁獄ノ申渡ヲ受クル者ハ其拘囚入費ヲ拂フヘキ申渡ヲ受ルコトヲ要スルナリ

財産ヲ有スル罪囚ハ此入費ヲ拂ヒ得ヘシ又之ヲ拂フ能ハサル者ハ裁判入費ヲ拂ハシムルト同一ナル手續ヲ履ムコトヲ要ス而シテ全債消却ノ時ニ非レハ民權剝奪ヲ解カサルモノトス

民權剝奪ハ過重ノ罰ト云ハンカ曰ク決テ然ラス負債ヲ消却スル能ハサル者ハ民權ヲ剝奪セラル、ニ非スヤ然レハ裁判入費或ハ囚獄入費ヲ拂フ能ハサル政府ヨリノ負債者ノミ民權ヲ剝奪カレサルノ理アラサルナリ故ニ法律ヲ破ル者ハ社會ノ負債者タリ而シテ此負債ヲ償フ能ハサレハ破産者ト同ク民權ヲ有スル能ハサルモノトスル固ヨリ論ナキ

ナリ

府民助力

茲ニ罪惡ヲ痛ク妨沮壓止スルヲ補助スル一方法ヲ演舌スヘシ是レ近時ノ律例中大ク忽ニセシ所ノモノニシテ所謂府民助力即チ是ナリ罪惡ヲ妨壓スルコトニ就キ世人多クハ唯政府ノナス所コトニミ依頼シ自ラ之ヲ顧ミス蓋シ民撰ニテ代議人ヲ撰舉シ之ヲシテ國ノ律令ヲ制定セシムルノ國々ニ於テハ其法令ヲ行フコト當テモ亦國人舉テ之ヲ補助セシムルハアルヘカラス又其國政人民ニ自由ヲ附與スル愈多ケレハ人民隨テ自己ノ自由ヲ短縮シ又其權利ヲ侵入スルコト抵抗スルヲ以テ益アリトス

抑法律ノ主旨タルヤ人民ヲシテ其權利ト自由ヲ充分ニ受用セシムルヲ保証スルコト外ナラサルモノナレハ其律令ニ違背スルハ恰モ府民ノ



自由保護ノ面目ヲ侵スニ異ナラス故ニ罪人ハ詭計暴動ヲ以テ自己ノ  
爲メニ社會ノ安全ヲ侵ス暴虐ノ人ニテ社會ノ讎敵ト云フヘシ  
故ニ法ヲ侵スヲ壓制阻遏スルト罪人ヲ法ニ處スルハ府民各自ノ權利  
義務ナレハ已レニ管係セサルコトシテ之ヲ爲スヲ辭スルハ府民タル  
者ノ貴重ノ恩義ニ逆フコトナレハ自ラ社會ニ反イテ罪惡ヲ犯スニ異ナ  
ラサルヘシ

羅馬ノ名士シセロ云ヘルコアリ惡ヲ爲スヲ見自ラ度テ之ニ抵抗シ得  
ヘキノ際ニ當リ之ヲ避クルハ其惡ヲ爲ス者ト罪相等シキナリト如斯  
者ハ實ニ朋友親子國家ヲ棄ル者タルコト瞭然タリオルロン氏之ニ加ヘ  
テ曰ク人各其義務ヲ盡スヲ知ラサルヘカラス假令已レニ危害ノコトア  
ルトモ之ヲ侵シテ抵抗セサル可カラス然ラサレハ己レ自ラ罪惡ヲ犯  
カ、ルモ既ニ袖手傍觀スルモノナレハ道德上之ヲ其本人ト同罪タル

者ト看待シ得ヘキナリ

如斯思想ハ篤實愛國ノ心アル人ノ見ニハ至理疑ヲ容サル所ナリ故ニ  
人々決心シテ罪惡ヲ侵スヲ壓止スルコトニ助力シ罪惡ヲ防キ罪人ヲ捕  
ヘテ之ヲ官ニ致サハ所謂世ノ罪惡ノ多分ハ如斯篤實誠意ヨリ起リ來  
ル所ノ網羅ノ中ニ包マレ假令暴虐ノ惡ヲ逞ウセント欲スルモ遂ニ達  
スルヲ得ス因テ以テ其惡念ヲ絶セン善良府民ノ如斯社會ノ耳目ハ決  
テ昧マス能ハス不長ヲ爲ス者復々逃匿スルヲ得可カラス即チ到ル處  
ニ証人アリテ其罪惡ヲ露ハス者存スルナリ自由國ニ於テハ府民各々  
「ボリス」ノ代辦タリトハ是レ之ヲ謂フナリ一時歐洲諸邦ニ在テハ此方  
法專ラ行ハレ府民官ヲ助ケテ惡徒ヲ討索シ若シ此方法ヲ遵奉セサル  
者アレハ過代ヲ申付ケタリ英國及ヒ合衆國等ニ於テハ此方法ニ類似  
スルモノ今尙ホ存セリ歐洲ノ法ニ曰ク罪マタハ過失ヲ犯セシ者ヲ知



ル者アラハ之ヲ官ニ訴フヘシト然ト雖モ此律ニ違ヒシ者ヲ罰スルノ  
 刑律アルニアラサレハ人復其惡ヲ訴フル者アルヘカラス甲ハ人ノ爲  
 ニ告クル者タラサルヲ欲シ乙ハ勞ヲ厭ヒ之ヲ爲サス或ハ其法庭ニ出  
 テ之ヲ明証スルヲ厭フタメニ之ヲ隱ス是レ府民助力ノ貴重肝要ノ主  
 義ニ背クト云ヘシ  
 故ニ此ニ意ヲ用ヒサルハ罪人ノ便宜トナリテ益其惡ヲ長シ罪人ヲ  
 シテ惡事ハ必ス遂ケ得ラル、ノ信用ヲ起サシメ無罰ヲ保証スルニ至  
 ルナリ

此慨歎スヘキ状態ヲ妨クルモノハ府民助力ニアリトス府民連合シテ  
 罪惡ヲ妨ケ若シ府民中此義務ヲ欠クハ之ヲ罰スルニ民權剝奪ト罰  
 金ノ律ヲ以テス願フニ罪惡ヲ妨クル如キ名譽アルノ義務ヲ盡サ、ル  
 如キ怯弱ノ者ヲシテ政事ニ預カラシメサルハ國ヲシテ益強大ニスル

ノ基礎ト云フ可キナリ

父母ノ義務

上ニ示セシハ自由國ノ府民普通ノ義務ナリ今茲ニ府民ノ間ニ存スル  
 義務ヨリ尙ホ親切ナル両親ノ義務ヲ論セントス  
 罪惡ヲ防遏スル治法ノ主タル者ハ道德宗教文學ノ三者ナリ人ノ父母  
 タル者ハ子ヲ教育シ正直勉強ナル府民タラシムルハ天ヨリ委テラレ  
 タル義務ナリトス  
 若シ父母ノ教育ニ欠ク所アレハ法律有リ之ニ代テ保護スルナリ父タ  
 ル者此神聖ナル義務ヲ念々心頭ニ留ムル風ヲ存スル各國アラハ此國  
 ヤ悞樂獨リ多カルヘシ如斯國ニ於テハ法令ヲ犯スモノ常ニ穢レナル  
 ヘシ然ルニ不幸ニシテ窮民多クハ此義務ヲ忘ル、ヨリ無賴ノ徒生シ  
 來ル一夥シク年々法ニ處セラレ懲戒獄ニ送ラル、モノ盡キサルニ至  
 ル豈歎セサル可ケンヤ



既ニ近來ハ諸邦ニテ多ク誘導教育法ヲ立テタリ人ヲ教導スルハ道德  
 宗教職業ヲ營ムニ便ナル學科ヲ以テ教フルヲ要ス  
 父トシテ其子ヲ公私學校ヘ送り生活ノ初步タリトモ學ハシムルヲ  
 得サレハ則チ是レ父タル天然ノ義務ヲ知ラサルモノトス乃チ唯此一  
 失ヲ以テ府民ノ權利ヲ奪フモ非理ト云フヘカラス  
 如斯一家ヲ収養スル能ハサルノ人ヲシテ社會一般ノ事務ニ參與スル  
 ノ權利ヲ許スノ理ハ萬々有ル可カラス  
 此論ヤ眞誠純實ニシテ好結果アルヘキノ思想クルヲ以テ囚獄議會ノ  
 大ニ注意スヘキ所ナリ

解放者ヲ管理救助スルノ法

懲治獄ニ拘囚スルノ方法ハ解放後ノ管理及救助法ヲ以テ補助セサル  
 ヲ得ス此方法ハ功ヲ用フルノ有無ニ從テ最上ノ美果ヲ結ビ或ハ惡因

ヲ醸スモノナレハ之ヲ論スルニハ明細ノ豫防ヲ要ス

警察吏ノ管理

佛國千八百十二年ノ議院議決ニ因リテ解放サレタル罪人ヲ盡ク政府  
 ノ設置シタル一處ニ住居セシムルノ嚴法ヲ定メタリ蓋シ未ダ感化セ  
 サル人ヲ此法ニ處スルハ最モ良法ナレトモ其惡ヲ悔イ其非ヲ改メタ  
 ル者ニ對シテハ不正ノ處置ト謂フヘシ即チ一旦悔悟セシ者ヲ復ヒ舊  
 惡ニ戻ラシムルノ法ト云フヘシ

千八百三十二年ノ衆議ニ於テハ罪人ノ希望ニ任セ其欲スル所ノ地方  
 ニ住居セシムルヲ決シタリ是レ前法ヨリ寛ナリト雖モ感化セサル  
 徒ニハ又是レ一ノ不良法ニシテ遂ニ此徒ヲシテ教諭シカタキニ至ラ  
 シムヘシ

故ニ前二法ハ卒ニ其實功ヲ奏スルヲ得サリキ何トナレハ要病平癒セ



シ者ト未平愈者トヲ共ニ治スル能ハサレハナリ  
 管理法ノ目的ハ解放ノ罪囚中再ヒ罪ヲ犯スノ疑アル者ヲ防クニ在ル  
 ナリ  
 警察ノ管理ハ宜ク節度ヲ加フヘシ不感化ノ罪人ハ之ヲ嚴コシ半ハ感  
 化セル者ハ少シク之ヲ嚴ニシ全ク感化セシ者ニハ之ヲ用ヒス蓋シ罰  
 ノ執行獄ノ管理ヲ掌ル政府ニ在テハ左ノ二箇ノ故ヲ以テ解放カレタ  
 ル罪人ヲ世間ノ安寧ト便宜トニ應シテ拘束スルヲ得ヘシ曰ク懺悔  
 シタル罪人ノ爲ニハ此管理ニ於テ先ツ教戒ヲ主トシ曰ク不感化ノ徒  
 ニ對シテハ會社ノ安寧ヲ保テ其徒ヲシテ再ヒ罪科ニ陷イラカラシム  
 上ノ説ハ余ガ千八百四十七年ニ著ハセル書中ニ見ユ爾後二十八年ヲ  
 經テ此論初テ佛國ノ議院ニ於テ一千八百七十四年一月二十九日ヲ以  
 テ之ヲ准行セリ

解放ノ罪人ハ其住所ヲ六ヶ月間轉スルヲ許サス其期限後ハ何處ニ  
 轉スルモ意ニ任スト爲ス警察管理法ハ行政權ヲ執ルモノ之ヲ廢止ス  
 ルノ權アリトス  
 按スルニ此法ハ豫防法ニテ刑法ニ非ス即チ之ヲ採用スルト採用セサ  
 ルトハ便宜ニ應スルモノナレハ之ヲ行政權ニ任カスモノナリ

救助法

善心慈悲ノ人從來解放セラレタル罪人ヲ保護救助スルヲニ意ヲ注ク  
 茲ニ年アリ然レ此善慈ナル事業ハ却テ惡人ヲ鼓動シ善良ナル貧民  
 ノ憤怒ヲ招クノミコシテ未タ實功ヲ奏スルニ至ラス  
 夫レ正直ナル貧民ニシテ此救助ヲ受クル能ハサルニ罪人ニシテ反テ  
 此惠ミヲ受ルノ理アラナヤ  
 故ニ此方法ハ尙ホ改正ヲ要スルナリ



此方法ヲシテ實益ヲ生セシムルノ要点ハ適當ナル經界ヲ定メ止タ之  
 必要ノ部分ニ用フルナルナリ  
 懲戒律ハ唯二様ノ罪人ニシテ救助法ヲ行ハシムヘシ  
 (第一)幼年又ハ才智不充ナル者ニテ其犯ストコロ罪惡ト云ハノヨリ  
 察ロ誤ト云フヘキモノアリ其之ヲ犯スヤ教育ナクシテ事物ノ善惡ヲ  
 分別スルニ暗キヨリ遂ニ惡人ナス所ノ例ニ流ル、モノナレハ解放セ  
 ラル、ニ當テ其親族ノ助力ナキモノナルトハ社會ハ之ヲ助ケ之ヲ救  
 ヒ之ニ業ヲ與ヘ以テ世間ニ獨立セシムルノ義務アリトス  
 (第二)成人ノ罪囚其禁獄中罪ヲ悔ヒ惡ヲ改メシ証跡判然タルトハ社會  
 ハ之ヲ救助シ之ニ生活ノ道ヲ授クルノ義務アリトス故ニ罪人若シ德  
 行ニ勉メスルノ故ヲ以テ未必免ノ特許ヲ得ルトハ社會ノ救助ヲ受ク  
 ルノ權アリトス然レ此輩ハ惡疾全愈ノ者ニアラサルヲ以テ徐々ニ救

助ヲ與ヘ能ク其舉動ニ注意スルヲ要ス  
 今右ニ論セシ如キ區域内ニ此方法ヲ適用セハ改惡法ノ本旨ニ於テ大  
 ニ其功績ヲ顯シ人々ヲシテ其有益仁愛ノ事業タルヲ稱讚セシムルニ  
 至ルヘキナリ  
 獄ヲ出ルニ當テ尙ホ其罪ヲ改メス法律ニ悖リ刑罰ヲ蔑シ教戒ヲ輕シ  
 益々惡念ヲ增長スルカ如キ徒ハ之ヲ處スルニ一方法ノ存スルアリト  
 ス曰ク嚴密ナル警察監督ノ管下ニ置キ社會ノ安寧ヲ妨碍セシメサル  
 ナリ  
 如此ノ徒ハ社會ノ興フル治療ト慈愛トヲ全ク拒絕セシ者ナレハ束縛  
 困苦ハ其自ラ招クノ結果ニシテ決テ他ヲ咎ムルノ理由アラサルナリ  
 故ニ救助法ハ右ニ述タル限界中ニ之ヲ行ヘハ仁慈有益ノ事業ナリト  
 雖モ然レモ若シ之ヲ過度ニ用フレハ所謂慈悲家ノ通弊ニ陥リ益々罪



人ヲ鼓舞シテ罪ヲナサシムルニ至ルヘキノミ

第八章 刑罰期限

未ダ審判ヲ經サル所ノ罪人ニ刑罰ノ期限ヲ許スハ刑法ノ正理ニ適スルモノト云フヘキノリ何トナレハ數年間ヲ經ルノ後ハ確實ナル証跡消滅シ罪狀明白ナル能ハス故ニ或ハ誤テ重罪若クハ輕罪ノ訴ヲ受ケルモノアルモ充分ニ其無罪ナルヲ辨明スル能ハサルノ弊害ヲ致セハナリ如此場合ニ於テ之ヲ保護シ其期限ヲ過ギタル訴ヲ許ルカ、ル如キハ社會ノ仁愛ト云ツ可キノリ

然リト雖モ既ニ判決ヲ經刑罰ノ申渡ヲ受タル罪人ニ刑罰ノ期限ヲ與ヘ若干ノ年限ヲ經レハ其執行ヲ釋免スルカ如キハ一ノ道理アルヲ見サルナリ或ハ曰ハンカ刑罰ハ負債ナリ期限ナカルヘカラスト此説ハ實ニ誤レリト云フヘシ

負債主カ若干年限ヲ經過スルニ由リ其責任ヲ免カル、所以ハ法律上債主ノ既ニ其請求ヲ捨テタリト見做スニヨルナリ然レモ刑罰ハ何程ノ年數ヲ經ルトモ之ヲ免スノ理アラサルヘシ蓋シ罪人其罪狀明白ナルニ刑罰ノ申渡ヲ受ケル時ニ逃亡シテ身ヲ隠クスヤ社會ハ刑罰ヲ行ハント欲スルモ能ハス不得已若干年限ヲ過クルモノナリ然ルニ是レヲ釋免スルノ道理ニ由テ然リト云フヘケンヤ若シ之ヲ釋免スルノ理由ナリトセンカ其目的ハ正道ヲ破リ罪人ヲ勵マシ罪惡ヲ增長セシムルコアリト云フヘシ人ヲ殺スノ大罪アルヲ以テ死刑ヲ申渡サレタル者逃亡シテ二十年ヲ過キ復ヒ其國ニ歸リ此大罪ヲ犯シタル地ニ在テ傲然トシテ安全ノ生活ヲナシ得ルハ甚タ惡ムヘシ忌ムヘキノコニアラスヤ然レモ目今文明ト稱スル諸州ニ於尙ホ之ヲ許スモノ多キニ居ルハ又異シムヘキノミ



今茲ニ銀行ノ雇人アリ該銀行ノ金五十万「フラン」ヲ竊ム法官之ニ禁獄  
 五年ノ刑ヲ申渡セリ此罪人逃亡シテ外國ニ到リ此贓金ヲ以テ歡樂富貴  
 ノ生活ヲ爲シ已ニ五年ヲ過キテ後中歸國シ安全ニ住居ヲ占ム然ル  
 ニ何人モ之ヲ妨クルコトヲ得ス他無シ彼レ刑罰ノ期限ヲ過キタルニ由ル  
 抑々正直ナル民ニシテ一身ノ勞ヲ以テ終生役々タルモ安ソク能ク如  
 此富ヲ得ル者多カラシヤ然レハ則チ右ノ如キ期限ハ盜賊ニ利益ヲ與  
 へ其惡ヲ增長スルノ方法ト云ハサルヲ得サルナリ

刑法ノ目的ヲ全カラシメントモハ宜ク此方法ヲ改正シ刑罰ノ申渡ヲ  
 受ケタル罪人ハ何年ヲ經ルトモ其刑罰ヲ受クヘク幾歲ヲ過クルトモ  
 其國ニ足ヲ置クトキハ捕ヘテ之ニ刑ヲ加フヘキナリ  
 斯ノ如クニシテ初メテ法律ハ正道ヲ得刑罰ハ功ヲ奏スヘキナリ

第九章 特免

特免法ハ社會ノ安全ヲ保ツニ必要ナリ君權ハ之ヲ施シテ裁判ノ過失  
 ナ正シ刑法ノ過嚴ヲ和ケサルヘカラス此特典アルユアラサレハ裁判  
 ハ決シテ正道ヲ全ウスル能ハサルナリ

自由ノ國ニ在テハ專斷ノ權アルヲ得ス故ニ特免ノ權ト雖モ亦限制ス  
 ルトコロナキニ非ス蓋シ余ノ考フル所ニヨレハ既ニ其罪ヲ悔悟シタ  
 ル罪人ニテ其罪ニヨリテ生シタル損害ヲ償ヒ裁判及刑罰ノ入費ヲ拂  
 ヒ得タル所ノ者ハ之レニ特免ヲ與フヘシト爲スナリ而シテ此特免ハ未  
 必免ナルコトヲ要ス即チ若シ不正惡意ノ所業アルハ再ヒ前刑ニ復セ  
 シムルコトヲ要スルナリ

又此特免ハ三ヶ月毎ニ之ヲ囚獄中ニ公告シ以テ他ノ罪囚ニ示シテ其  
 警戒ヲラシムルコトヲ要ス  
 右ノ制限ナキハ特免法ハ社會ノ利益ニ非ス君權ノ慈愛ニ非スシテ



當ニ法律ノ權力ヲ滅殺シ不公至ナル愛情ヲ果スノ器具トナリ刑法ノ  
大主旨ニ大ナル妨碍ヲナスニ至ランノミ

罪人ヲ社會ノ交際ニ復歸セシムルノ方法

放免セラレタル罪人ヲ善良ノ民ト爲シ以テ社會ノ交際ヲ保タシムル  
ノ方法ヲ論セントスルニハ結局ノ一方法ヲ陳述スルヲ要ス結局ノ方  
法トハ何ソヤ曰ク社會ノ交際ニ復歸セシムルノ方法はナリ實ニ此方  
法ハ刑罰及ヒ懲戒ノ全局ヲ鞏固ニスル所ノ柱石トモ稱ス可キ也  
羅馬法ニ於テ此方法ヲ認メテ王ノ特免權トナセリ然レモ近世ハ其認  
ムル所全ク之ニ反セリ放免セラレタル罪人ハ社會ニ復歸スルノ權利  
アリトスル是レナリ罪人懲罰ニヨリテ其罪ヲ悔イ其惡ヲ改メ而シテ  
放免セラレ、其ハ社會ハ之ニ各自同様に權利ヲ有セシムルハ寬仁慈  
愛ノ主意ニ出タル義務ト云フヘキノミ放免ノ罪人此權利ヲ受ルヤ即

チ一回死シタル者ノ復ヒ蘇生シ來ル者ト見做サル、ナリ即チ懲罰ニ  
因テ其惡ヲ改メ善良ナル民トナレルヲ証明セラレタルナリ

此權利ヲ得セシムレハ罪人ノ心裏ニ道德ノ念ヲ發起シ復ヒ民間ニ歸  
リテ人々固有ノ權利ヲ占有シ一ノ良民タラント欲スルノ心情ヲ生セ  
シムヘキナリ

懲罰ハ彼ヲ壓シ彼ヲ辱シム復歸法ハ彼ヲ扶ク彼レニ其權利タル譽ヲ  
収復セシム

此寬仁ナル方法ナクシハ刑罰ハ野蕃ノ具ニ屬シ懲戒ハ都テ不利益ノ  
モノトナランノミ



正 誤

第二十五丁十二行ハハニノ誤  
 第三十三丁七行起シノ下ニ○ッ○テ○チ○脱  
 第六十二丁八行時問ハ其ノ誤  
 第二百二十八丁六行草按チノ下議事院へ  
 第二百二十九丁二行免等ノ下規則ノチ  
 第二百三十丁八行治ハ役綱ハ獄ノ誤  
 第二百三十一丁五行治ハ役ノ誤  
 第二百三十四丁一行十ハ千ノ誤  
 第二百四十三丁七行獄ハ制刑ハ制ノ誤  
 第二百四十七丁十行獨リハ強クノ誤  
 第二百四十九丁四行散ハ敢ノ誤  
 第二百五十一丁四行セラレテハセスシテ  
 第二百五十二丁十二行歌ハ歐ノ誤  
 第二百五十六丁十行曉ハ暖ノ誤

明治十七年四月五日 届  
 同 年四月 出版

(非賣品)

# 大阪府監獄本署

御用印刷所

文敬堂

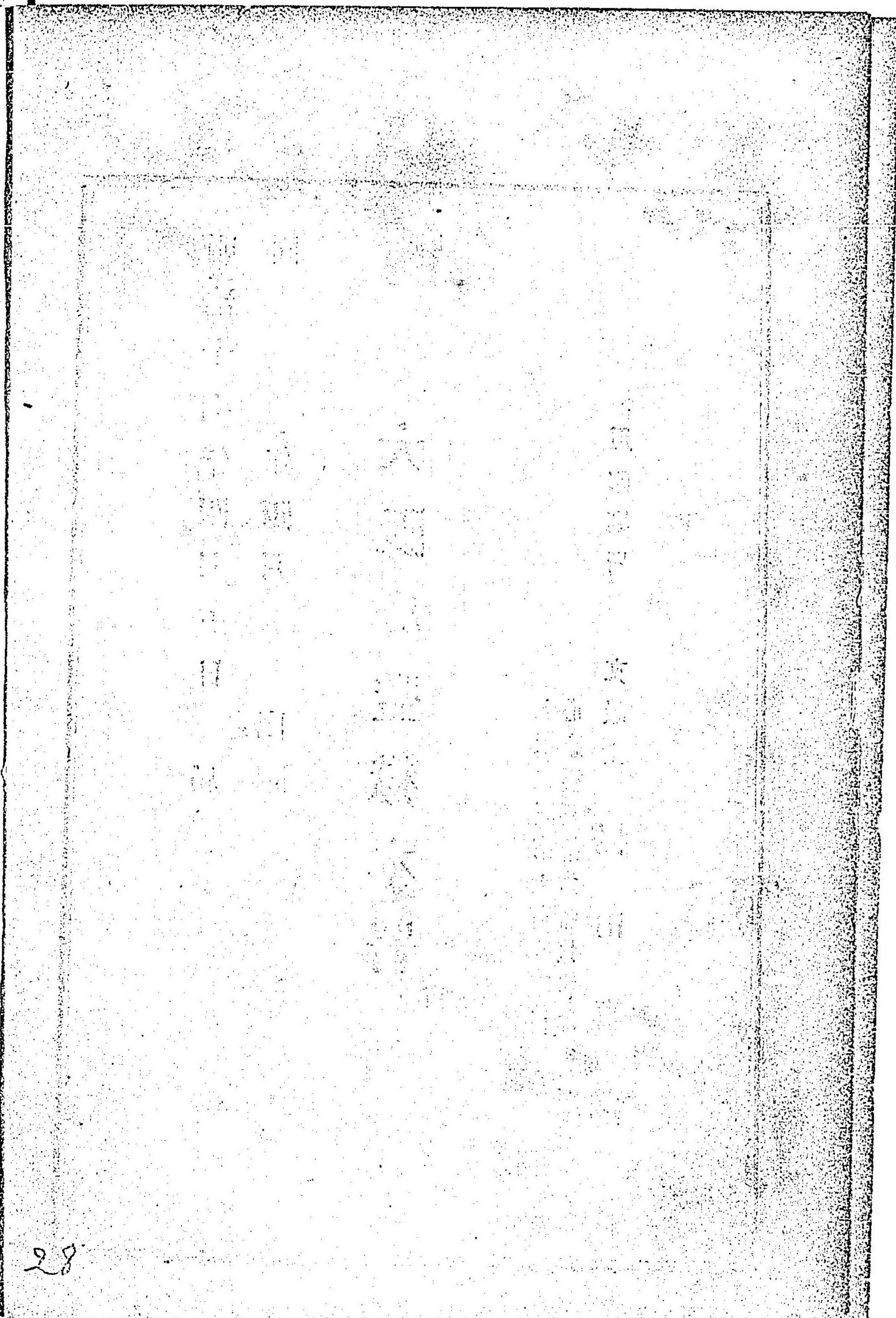
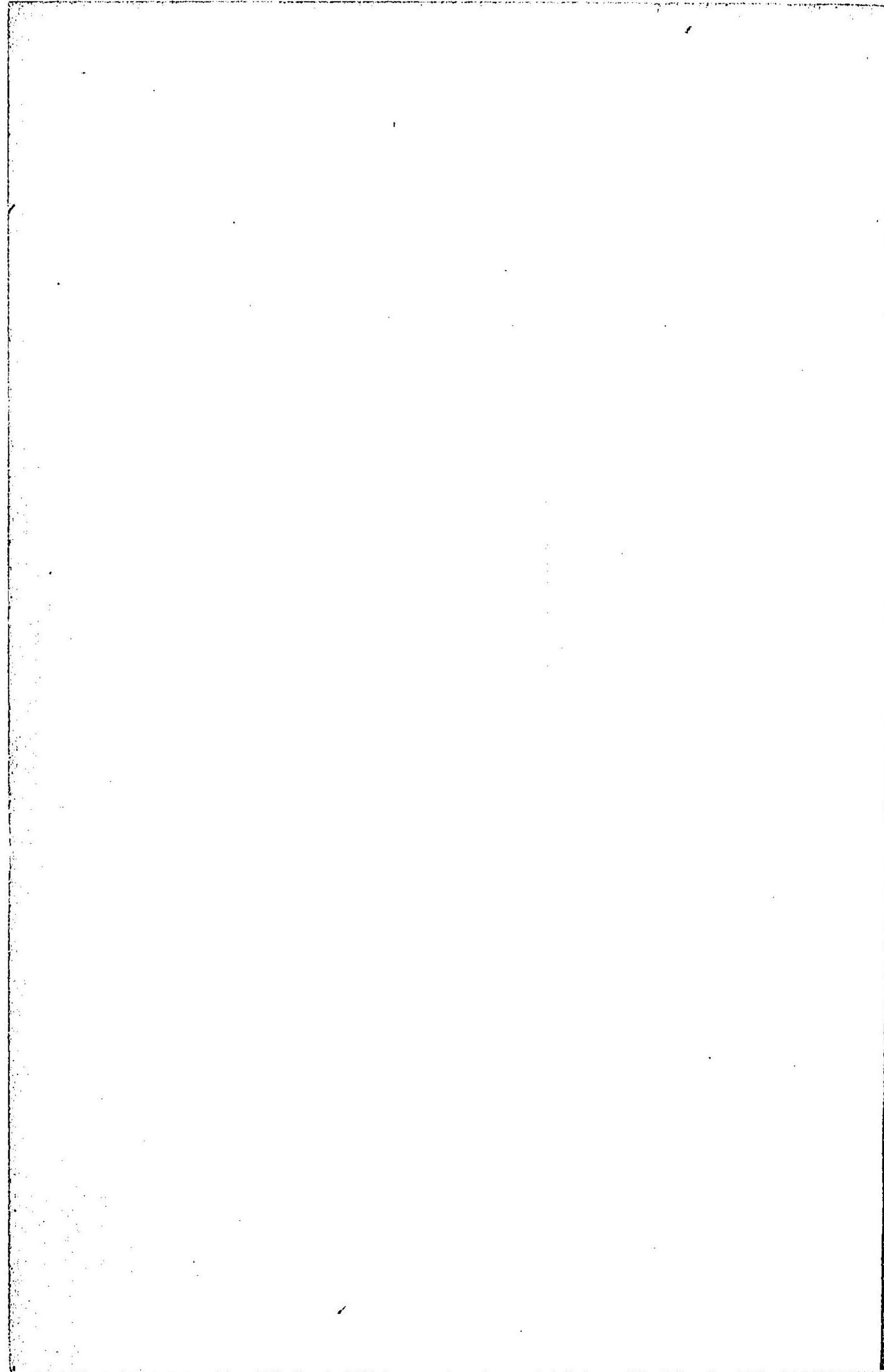
梶田

喜

藏

大阪東區南本町四丁目  
 心齋橋筋拾六番地書肆



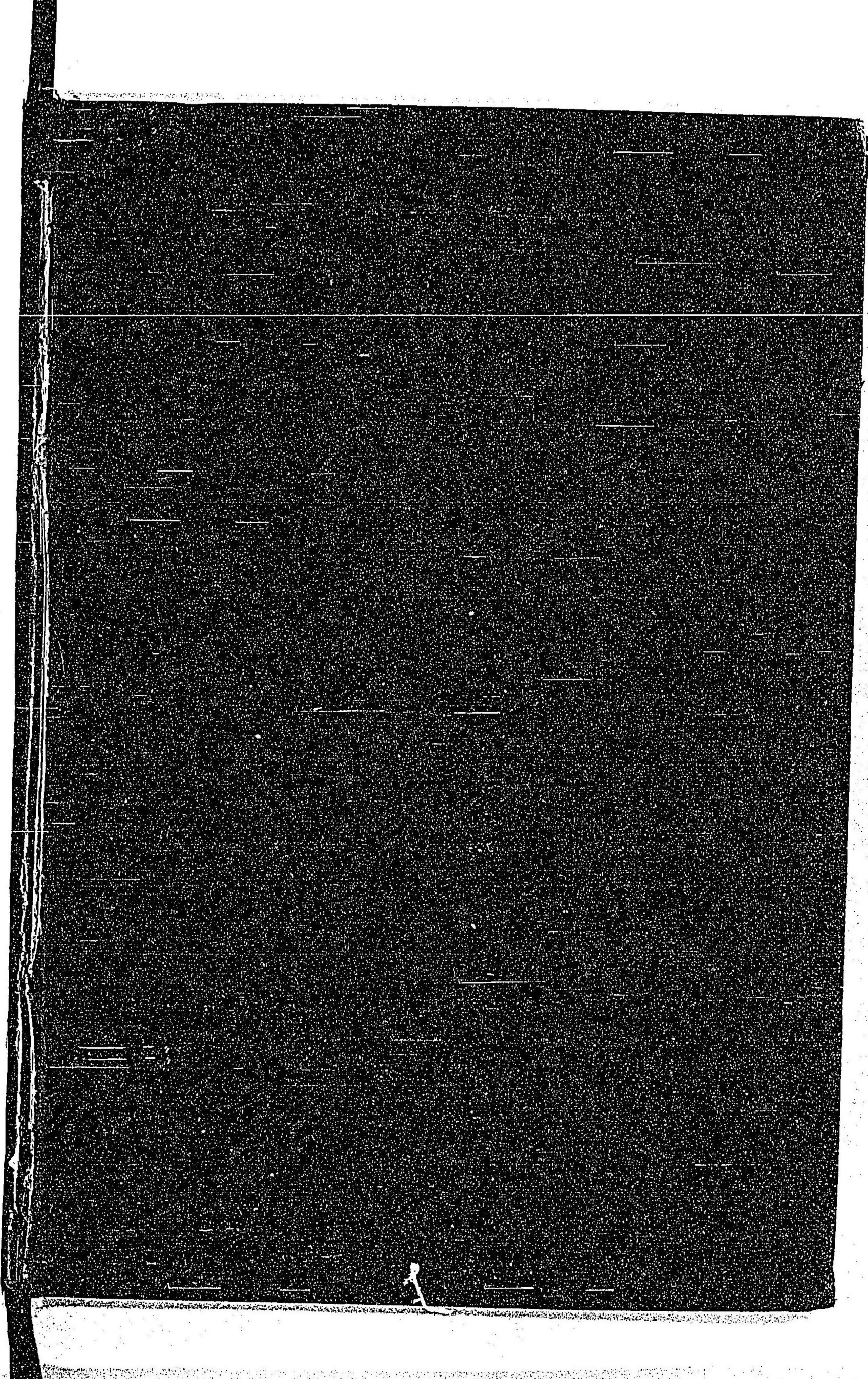




30

16







30  
16

東 京 圖 書 館					
一		三			
三	六	三	〇	屬	類
冊	号	架	函		



